

- 1 派遣期日 平成23年11月18日(金)
- 2 研修先 学校名 静岡県掛川市立第一小学校
所在地 静岡県掛川市掛川1108-1
- 3 研修内容

掛川市教育委員会指定 特別支援教育研究発表会
研究主題 「自分のよさを発揮し ともに学ぶ子」の育成を目指す
「学びのユニバーサルデザイン」の視点に立った授業改善

(1)「特別支援教育」研究構想について

①掛川第一小学校の考え方

「学びのユニバーサルデザイン」とは、特別支援教育の対象をすべての子どもたちとし、どの子にもわかりやすい授業をデザインすることと考えた。

②研究仮説

- 「特別な支援が必要なAさんのための支援は、他の子にとっても必要で有効な支援となる」という考え方にに基づき、手立てを工夫し、授業を重ねていくことで子ども一人一人は自分のよさを発揮し、仲間とともに学んでいこう。
- 学びの環境を整え、よりよい「かかわり」をもった「集団」づくりをしたりすることで、子ども一人一人は、自分のよさを発揮し、仲間とともに学んでいこう。

③手だてと実践

ア 「学びのユニバーサルデザイン」の視点に立った授業改善の手だて

A 焦点化 今日は何を勉強するのか、今何を考えるのかをはっきりさせる

- ・学習の見通しを持たせる。
- ・子どもの言葉を生かした中心発問をする。

B 視覚化 思考を助けるために、学習していることを分かりやすく話す

- ・板書を構造化する。
- ・教材、教具を工夫する。
- ・視覚と合わせて、五感をつかったイメージ化も取り入れ、有効な手だてとする。

C 個への対応

Aさんの個性や考え方を認め、Aさんにとってよりよい支援や授業展開を考える

- ・よさや困り感を見取る。
- ・特性に応じた支援をする。
- ・その子に合った活躍の場をつくる。
- ・多様な授業形態を工夫する。(一人→ペア→グループ)

イ よりよい「かかわり」をもった「集団」づくりの手だて

D 居心地のよい学級

- ・教室の環境をつくる。
- ・あたたかい人間関係をつくる。

ウ 授業改善とともに力を入れた取組

○ 教師の指導力向上を図る。

…学びのユニバーサルデザインの視点で授業や学級経営について話し合う。
講話を聞き、特別支援教育の理解を深める。

○ 保護者や関係機関と連携する。

…相談体制、情報発信、特別支援教育体制の充実、
幼稚園・中学校との連携、専門機関との連携

(2) 公開授業参観について

特別支援学級2学級を含め、全学級20学級の授業が公開されていた。「焦点化・視覚化・個への対応」を考えた授業は、どの児童にとっても分かりやすいものであり、子どもたちが生き生きと楽しそうに活動している姿がたくさん見られた。

授業案の中に「焦点化・視覚化・個への対応」がしっかりと明記されており、今回の研究のポイントがよく分かるものになっていた。「焦点化」では、問題文だけでなく、今何を考えるのかポイントをしばった課題が板書されていて分かりやすくなっていた。「視覚化」では、板書する内容をしっかりとまとめて構造化し、色わけする・順番に並べる・隠して着目するところを分かりやすくする等の工夫が見られた。また、具体的な操作活動や五感を使った活動を取り入れてイメージしやすくしていた。

「個への対応」では、国語でマス目のノートを使って書きやすくしたり、文字の大きさ、挿絵、吹き出し等を工夫したワークシートを用いたり、写真や具体物、半具体物を用いたりしてどの児童にも取り組みやすくしていた。また、個人で考える時間とペアで考える時間を設けることで、疑問を解決したり、考えを深めたりすることができるようにして一人一人が学習に取り組めるようにしていた。配慮を要する児童に特別なものを用意したり、支援したりしているわけではなく、みんなで学習を進めているという印象をもった。

教室環境を見ると、前面にはほとんど掲示物がなく、今日の学習予定と週の予定だけであった。すっきりとしていて一日と今週の流れの見通しがもてるものになっていた。側面には、学習したことのポイントを示した学習コーナーがあり、これまでの学習をすぐに振り返ることができるようになっていた。また、自分たちの目標や歩みが一目で分かるようにした掲示物で実感をもたせたり、生活のきまりやルールを視覚化して掲示して分かりやすくしていた。

(3) 講演会

「特別支援教育」が教えてくれたもの

一人一人が輝くための「学びのユニバーサルデザイン」

岐阜聖徳学園大学准教授 鎌塚 優子先生

発達障がいのとらえ方、神経心理学・神経生物学的視点、特別支援教育が教えてくれたことについての講演であった。脳にも体質があり、周囲も自分自身もそれを理解すること、発達障がい児のかかえる見えにくさには情報を整理する手伝いが必要なこと（視覚化・焦点化）、発達を停滞させないように五感を使い、感覚情報を処理する経験を積むこと、一人一人が輝くためには個の支援だけでなく、よい集団づくりが大切なことなどについての話があり、考えさせられた。学びのユニバーサルデザインの中で育った子どもたちは、多くの価値を理解し、いずれ心にユニバーサルデザインを描く子どもたちに成長していくとの言葉が心に残っている。

4 感想

特別支援学級と通常の学級の担任をどちらも経験し、通常の学級にも発達障がいがあると思われたり、配慮を必要としたりする児童生徒がいるということを実感している。通常の学級で行う支援は、どうしたらよいかということが自分の中で課題となっており、掛川第一小学校での研究は、とても興味深いものであった。特別な支援を必要とする児童に対する支援は、他のどの児童にとっても必要で有効な支援となるという考え方が大切であるということは、これまでも聞いたことがあったが、実際の支援となるとどんなことをしたらよいのか考えてしまう。研究発表会に参加し、具体的な方法をたくさん見せていただいて、焦点化・視覚化・個への対応・居心地のよい学級づくりがいかに大切かが分かった。授業の仕方だけでなく、教室の掲示物にも支援に対するヒントとなることがたくさんあり、児童の実態を見ながら実践していきたいと思う。今回の研修をもとに学びのユニバーサルデザインについてさらに考えていきたい。